

【啓発機能のあるべき方向性】

啓発機能のあるべき方向性については、以下のとおりとする。

施設見学の充実を図り、環境教育を推進する。

市民の自主的な取り組みを支援する。

交流の場を設け、市民とのふれあいを育む。

国定公園の緑豊かな自然を活かす。

経済性を考え、効率よく長続きできる運用を行う。

リサイクル施設の一部として考えられる啓発機能の例

学習、アミューズメント機能

- ・ 3Dシアター
- ・ クイズコーナー
- ・ チャレンジ

体験学習機能

- ・ 紙すき工房
- ・ ガラス工房
- ・ せっけんづくり工房
- ・ 自転車、家具修理工房

研究（実証）機能

- ・ せん定枝の木質ペレット研究
- ・ 生ごみの堆肥化研究

市民利用機能

- ・ フリーマーケット
- ・ リフォーム教室
- ・ 堆肥化教室
- ・ ゆずります / ゆずってくださいの情報コーナー
- ・ 人材登録コーナー
- ・ 市民活動発表（紹介）コーナー
- ・ 市民サロン

敷地内のスペース活用も含め、施設全体として考えられる啓発機能の例

学習参加イベント

- ・ 昆虫観察会
- ・ 野鳥観察会
- ・ 星座観察会
- ・ 広場を開放したイベント

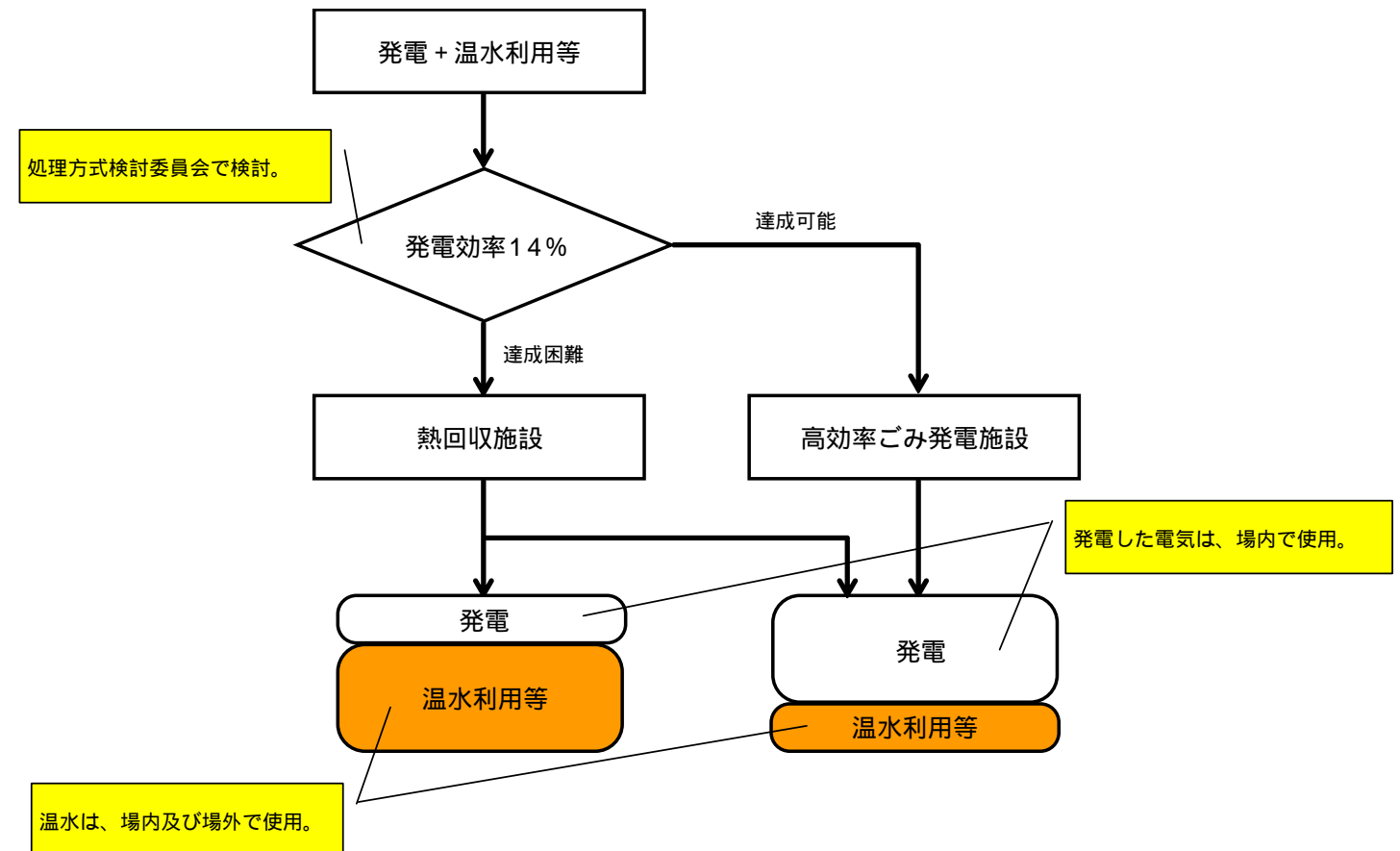
立地条件を活かした植栽計画

見学者ルートに、現場を追加
（安全には十分に配慮）

【エネルギー利用のあるべき方向性】

エネルギー利用計画のうち、発電効率 14%の可能性については、現在、処理方式検討委員会で検討している。

発電した電気は、場内（熱回収施設及びリサイクル施設等）で使用する。
温水については、場内で使用する以外に、場外での使用が考えられる。



エネルギー利用について、具体例を次に示す。

できるだけ発電し、余剰分は売電

敷地内での熱活用（足湯など）

余熱利用施設への熱供給（温水プール、温浴施設）

近隣施設への熱供給